不安や悲しみに寄り添って一緒に慰めてくれる――そんな癒しの力を持つのが歌

歌手 三ツ屋亜美

黄昏のカフェ／熱海で逢えたら　2020年7月29日徳間ジャパンコミュニケーションズより発売

「昭和歌謡」のジャンルで活躍してきた歌手の愛海。
三ツ屋亜美と名前を新たに、
この夏メジャーレーベルからのデビューを果たす。
インディーズでのシングル『愛　火のように京都』のリリースから
メジャーデビューに辿り着く長い道のりの中には、
恩師と交わしたかたい約束があった。

芸能の道に進まれたきっかけは？

学生時代、母とショッピングしている時にスカウトを受けることがありました。母は基本的に芸能活動には反対。きちんとした雑誌のモデルやランウェイを歩くというショーモデルの仕事だけは許してくれました。

子供の頃から陸上競技に打ち込んでいて、高校はスポーツ推薦で進学したくらいです。それが思春期を経て陸上競技を生活の全てに優先させなくてはいけないことがつらくなってしまったんです。友達は皆で遊びに行くのに、私は勝負の世界にいて、練習の毎日。好きな服を着たりヘアスタイルを楽しんだりといったお洒落をする余裕すらないし、出来るだけ足に負担をかけないようにと、靴は必ず運動靴というルールまでありました。何から何まで縛られる中で、自分らしく生きたいという思いが募りました。

それが弾けてしまったのが高校3年生の時。実業団や大学からの勧誘はいただいていたんですが、結果を追い続ける毎日に疲れきっていました。それでインターハイ出場が決まった時、陸上は高校までで

三ツ屋亜美公式サイト https://ami-mitsuya.com

感はありませんでした。

実は、3歳の頃からバレエやピアノを習っていて、コンテストや発表会のステージに立つ機会がありました。物心ついてからは陸上漬けの日々でしたが、子供の頃にスポットライトを浴びた感覚を忘れていなかったのでしょう。自分が次に何をやりたいか、その関心は自然と芸能の世界へ向かいました。

芸能の中でも歌の道を選んだ理由は？

一生歌の道で頑張っていこうと決めたのは、作詞家の音綾先生との出会いがきっかけです。

音綾先生は心臓のご病気をお持ちで、基本的に外出など心臓に負担をかけることを控えておられました。飛行機に乗ることさえ難しかったんです。そんな大変な中で作詞家として最後に何か残したいと、私のために『愛 火のように京都』を書き下ろしてくださいました。作詞は音綾先生。作曲は亜島圭二先生。この出会いがなかったら、今も歌手を続けていたかどうかわかりません。

「1作目は、僕が土台を作ってあげるから、この先はメジャーに行けるように、自分で道を切り開きなさい。いつか徳間ジャパンとかでデビュー出来たらいいね」と私の背中を押してくださいました。それが7年前のことです。

そんな先生が3年前に亡くなりました。私がメジャーデビューして活躍することを、先生は誰よりも期待してくださっていました。その気持ちにお応え出来ないまま、1作目で世に出してくださった恩返しが出来ないまま、旅立たれたのです。

一日も早く先生の墓前に嬉しい報告をしたい。で

引退することにしたんです。結果的には高校生活最後の国体直前に怪我をしてしまい、有終の美は飾れませんでしたが、正直なところ、怪我が周囲に引退を切り出すいいきっかけになったと思います。

競技人生の中では相応の結果は残し続けてきました。自分が本気で取り組んできたという証です。自分で自分を認めてあげたいという気持ちがあり挫折

も、それがなかなか叶わない。忸怩たる思いの毎日でした。

そんなふたりにとっての念願のメジャーデビューがやっと実現したんですが、あの時、先生と話した通り、徳間ジャパンからデビュー出来たのは、先生が雲の上から導いてくださったのかなと思います。

振り返ってみるとこの7年は私にとって本当に必要な時間だったのでしょう。すぐ手が届く夢は、叶ったとしても重みを感じられない。今は亡き先生が私にかけてくださった思い。その大きさはこの7年という時間があるからこそ、ひしひしと感じられるんです。

だから、7年かけて巡り合った『黄昏のカフェ』は、私ひとりの曲じゃなくて、これまで私を支えてくださった全ての方の時間や思いが託された宝物。そんな宝物だからこそ大切に胸に抱いているような気持ちで歌い上げています。今の私だからこそ歌える――先生なら7年という時間の意味、それが必要だったということをわかってくださるんじゃないでしょうか。墓前にもそう報告したいですね。

書き下ろされた曲を聞いて何を思いましたか？

最初はカップリングされた『熱海で逢えたら』がメインの曲になるはずでした。でも、『黄昏のカフェ』を聞いた瞬間、私はこの曲をメインにしたいと感じたんです。古きよき昭和歌謡の香りのするタイトルと曲調で、切ない詩とノスタルジックな雰囲気が心に浸透していくのがわかりました。

昭和が平成になっても、あの頃のよ

さってありますよね。バブルが崩壊して、格差が問題視されるようになった平成。大きな災害も続き、今年に入ってからは、新型コロナウイルスの感染拡大による自粛。後ろ向きに、そして暗い気持ちになりがちだけど、右肩上がりで活気のあった時代を皆覚えています。若かったし豊かだった――そんな昭和の時代に心が帰っていくような曲に仕上がったんじゃないでしょうか。

昔のよかった時代を思い出すということは、決して弱いことではないし後ろ向きなことじゃないと思うんです。大変な毎日は続くけれど、それこそカフェでコーヒーを飲んで、心を寛がせる時間と同じ。聞いてくださる方の心に寄り添う曲であって欲しい。青春時代の甘酸っぱく苦い気持ちを思い出せる、本当に素敵な曲をいただきました。そう、いいコーヒーって苦味も甘味も酸味もあるんですよ（笑）。

3年前に別れた恋人との偶然の再会。寂しく切ない恋をテーマにした曲ではあるけれど、最後には自分自身の道を頑張って進んでいくという覚悟を歌い上げています。

今回のメジャーデビューを契機に、今までの愛海という芸名ではなく、本名の亜美に変えました。原点回帰といいますか、本名を名乗るということは、ありのままの私でいくということ。自分の全てを出し切って偽りのない姿で、この曲に賭けていくという決意の表れです。

本名の亜美は、両親が好きな曲『オリビアを聴きながら』の尾崎亜美さんからつけられました。本名も歌に因んだ名前なんですよ。私は、生まれた時から歌を歌っていく巡り合わせだったのかもしれませんね。

歌の力ってあると思いますか？

私も、読者の皆さんと同じように入院したことが何回かあります。入院ってそれまでの自分を振り返ることが出来るタイミングなんですよね。そんな時に歌がそばにあると、これまでの自分の頑張りを認めてあげたり、傷ついた心を癒してくれたり、落ち込んだ自分を奮い立たせてくれたり……。

先の見えない病気や怪我との闘いの日々に、不安を感じている患者さんは少なくないんじゃないでしょうか。そんな不安や悲しみに寄り添って、一緒に慰めてくれるのが、歌の癒しの力だと信じています。

どんな歌手を目指していますか？

元気のない方が目の前にいらしたら、一緒に歌って差し上げたい。私の歌にじっと耳を傾けてくれるのも嬉しいけれど、私はどちらかというと皆さんに一緒に歌いたいと思っていただける――そんな歌手になりたいです。

心を込めて歌うと、人間の持つ感覚が総動員されるんです。一緒に歌うと、さらにそれが増幅されます。相手の顔を見て、そばに寄って、相手の体温とにおいを感じ、手を繋いで触って、声を聞く――たくさんの感覚を使って、心でも歌を感じることが出来るから、一緒に歌うのが好きなんです。

ファンの方にお伝えしたいことは？

インディーズでCDを販売していた当時、半年間のキャンペーンをやったことがあります。その際、一番最初に買っていただいたお客様は、その後も誰もいない客席に何度も何度も足を運んでくださいました。実は、その方が今のファンクラブの会長さんなんです。これまでずっと泣いたり怒ったりしながら一緒にやってきました。ステージ衣装の着物のまま一緒にラーメンを食べに行って、会長さんを驚かせた思い出もあります（笑）。

他にもたくさんの方に支えられて今の私があります。メジャーデビュー出来たら真っ先にファンの皆さんにお伝えするつもりでやってきました。今、喜びを分かち合えて、本当に嬉しい。もちろん、これがゴールではなくてスタートですが、支えてくださったファンの方、天国の音綾先生、作詞の円香乃先生、作曲の大谷明裕先生、編曲の竹内弘一先生、様々なことを教えてくださった先輩、お世話になった皆さんへの感謝を忘れず、この曲を歌い続けていきます。

『黄昏のカフェ』三ツ屋亜美

2020年07月29日発売

●収録曲 黄昏のカフェ／熱海で逢えたら ●形式 CDシングル ●品番 TKCA-91284 ●価格 ¥1,350（税込）
●レーベル 徳間ジャパンコミュニケーション

撮影：川上博司 hirophoto319@gmail.com ヘア＆メイク：Haru mimi_5603@yahoo.co.jp
衣装協力：フォルトゥーナ（furuni Co.,Ltd.） 撮影協力：top terrace 2031 〒150-0047 東京都渋谷区神山町 16-4 ヴィラメトロポリス RF 050-5304-1350